

# 講演会 & ライブ な日々④

古川 秀明

京都の西院というところに在日大韓基督教会がある。  
ご縁があってここでライブをさせてもらった。  
来られる方の国籍は中国、韓国、そして日本の三カ国。

ここでいったいどんな歌を歌えばいいのだろう。  
ずっとこの三カ国の関係は微妙だ。  
竹島や尖閣諸島の領土問題、ヘイトスピーチ、従軍慰安婦問題・・・。  
いろんな考え方がある。  
大切なのは「自分が今、韓国と中国と日本人に何を伝えたいと思っているのか」だと思った。

あらためて考えて見ると、自分は今までアジアの国際情勢について深く考えることなどなかったことに気付いた。  
教科書やマスコミから教えられる情報を、何の疑いもなく他人ごとのように受け取り、そして流していた。

何かを伝えたいと思う時に、どの視点に立つかで見える景色はまるで違う。  
世界やアジアの中での自分の存在をマッピングして考えた時に、何にも考えたことがなかった自分に気付いた。  
何かを歌にして伝えようと思った時に、グローバルな視点のかけらもない自分がいた。

このライブはそんな自分に気付かせてくれるチャンスくれたようにも思える。

洗礼を受けたキリスト教徒ではないのだが、せっかく教会の神様の前で歌わせてもらうのだから、嘘や偽りのない気持ちを歌いたいと思った。

世間は憲法 9 条や安保保障関連法案で揺れている。  
きなくさい。

安保で想定している敵国は韓国や中国だろう。  
その時に私の頭の中にある言葉が浮かんできた。

「ゆりかごを動かす母の手は、やがて世界を動かす！」

そうだ！憲法がどうの、安保がどうのも大事だが、お母さんが我が子に「戦争に行くのは許さない！」と幼い頃から諭せばいいのではないか！  
日本、中国、韓国のお母さんが手をつなぎ、連携して我が子を戦にやらないようにすればいい。

よし、決めた。そんな歌を歌おう。

会場には日本、中国、韓国のお母さん達がたくさん来てくれた。  
まずは日本と中国と韓国は、こころの深い所で歌でつながっているのだということを実証してみた。

拍子（リズム）と音階でそれがすぐにわかる。  
韓国で有名な「アリラン」という曲を軸に考えた。

みんなびっくりしてくれた。

そして、日本、中国、韓国の平和を願ってこの歌を歌った。

「母」のことを中国では「まあ」と呼び、韓国では「おんま」と呼び、日本では「おかあさん」と呼ぶ。  
「まあ、おんま、おかあさん」という歌を作って聴いてもらった。

## 【ま〜、おんま、おかあさん】

中国語で「まあ」、韓国語で「おんま」、  
日本語で「おかあさん」  
お国で呼び名は違っても  
母の願いはみな同じ  
子供を戦にやりたくない  
子供を殺されたくはない

海に浮かんだ小さな島を  
みんなが争い奪い合う  
自分が産んだ息子達が  
戦争に行って殺されて  
小さな島を手に入れても  
母に残るのは遺骨だけ

まあ、おんま、おかあさん  
手をつなぎましょう  
二度と戦にならぬように  
政治も男も軍隊も  
母の愛には敵わない  
母が我が子を諭しましょう  
話し合いで解決なさい

政治も男も軍隊も  
母の愛には敵わない  
我が子の命を守りましょう  
世界中の母の力で

歌っている途中から泣いている人が見えた。  
歌が終わると大きな拍手をもらった。

日本の京都という小さいエリアの中で、100人ほどの小さな集まり。  
その中で歌を認めてもらっても、アジアの情勢になんの影響もないだろう。  
会場を出て10分もすれば、みんなこの歌のことも忘れてしまうだろう。

それでも私は今までにない幸福感に包まれた。

神様の前で、自分に嘘をつかずに歌えたことも大きな喜びだ。

このライブで、歌を売って成功するんだ！という今までの歌に対する考えが大きく変わったように思う。